

ミニデイサービス便り

昼食はバイキング

デイサービスでのお昼ご飯は大切な時間です。今日の、メニューは目先をかえて“冷しゃぶと野菜、豆腐に果物”のバイキング。幾つかの大皿には冷しゃぶ用お肉にレタス、トマトにキュウリ、なす、いんげん、おくらなどのお野菜、豆腐など盛られている。「好きなものを取って下さいね。取れない方は取りますから言って下さいね」の声に、ちらちらお隣を見ながら、皆さんのお箸が運ばれる。「これ、柔らかいお肉かね」「ものすごく柔らかいに、歯がなしてもええ大丈夫だよ」先に食べた方から言葉が返る。「青い野菜は何かね」「たくさんやねー」「あんた、それ食べやーすの」「わたし、ゴマだれのほうがいいわ」「ちょっと、豆腐とってもらえんかね」・・・と。いやでも言葉が自然に出る。話が飛び交う。賑やかで活気があり、いつもの雰囲気とはちがっている。顔も、手も、口もみんなササッと動いている。「こんな種類の多い野菜、家では食べれないから、思わずたくさんいただきーたがね」一人暮らしの方が、お隣の方に話されている。きっと今日は消化もいいのではないかなと思いつつ、利用者さんの声を聞いていた。食べることの満足感、気持ちをも豊かにしてくれる。そんな空気が感じられた昼食時間でした。
☆8月のデイサービスは次のとおりです
保育園 8/9、23 事務所 8/2、16、18、30

暑中お見舞い申し上げます

講座報告

家族介護講座開催（寝たきり体験と介護技術） 家族が学ぶ介護講座には関心が薄い？

去る七月六日から七日にかけ、一宮市の委託を受け、当会が第一回家族介護講座開催しました。どんな介護をするの？いいだろうと思っておられる方は多いと思われませんが、事前に学ぶことへの関心は薄いようでした。介護保険制度の利用が出来るから、まだ先のことだからという理由があるようです。「資格がとれますか」というお問い合わせや、実際に介護の仕事をしている方々からお問い合わせがあり、一般からのお問い合わせが少ないと感じました。

寝たきり体験で病む方の痛みをほんの少し知ることが出来ました。
排泄が「おむつ」の中でという屈辱／その「おむつ」を人にかえてもらう気持／物を食べさせてもらおう苦痛／動けない苦しみが、だからどんな介護が必要でしょうか。病むことを知ろう。

セミナー参加報告

第二回ユニットケア全国セミナー 日時・平成13年7月20日～21日／場所・仙台国際センター

ユニットケアの趣旨は、まごころミニデイと同じ
ユニットケアの先に地域での生活が見えて来た
この程、仙台市で行われたユニットケアセミナーに、は全国から二千名に及ぶ参加者で開催。当会は、これまでデイサービスをミニでという方針であり、同じ土俵でのユニット施設ケアに関心があり参加しました。

ユニットケアとは
特別養護老人ホーム・老人保健施設でも、宅老所やグループホームのような家庭的な生活をおくることのできるよう、大規模な施設の中に幾つかの小規模施設を作り個別的な暮らしを施設の中で行うケア
セミナーでは、ユニットケアを実施施設の報告があり、成果については次のとおり
☆入所者が自分の居場所を見つけられたようになり問題行動が少なくなった。
☆生活のパターンと役割を理解でき、その人に合わせたあたりまえの暮らしが出来ようになった。
☆個別の行動が出来るようになり、外出や趣味などの参加が始めた。
☆個別の排泄や生活リズムを把握することが出来るようになった。
また、施設設計にかかわってられる、京都大学工学部教授の外山先生は、施設で暮らす人にとって、その物理的な環境は大きな影響を及ぼす。特に高齢者が地域で生活しておられたときとの生命力を萎ませてしまわずに暮らしていくためには、環境の力を味方につけたケア、介護が必要不可欠だと述べられた。

施設ボランティア便り
施設ボランティアにご参加の皆様お疲れ様です。施設での活動について、わからないことやご意見がありましたら、食堂の食器戸棚の中に連絡ノートを用意して下さっていますので、ご利用下さい。

NO.20 チェック介護保険

訪問介護事業所の誤りを

先日、当事業所ではあってはならないことを起こしてしまいました。それは、一日二回の訪問をし、排泄誘導とおむつ交換をさせていたことになってお宅で、二回目のケア訪問をしていなかった、という極めて重大な間違いでした。ご家族がお帰りになられたので、早速取り替えて下さったとのことでしたが、当然あってはならない事でした。担当のケアワーカーの都合が悪くなり、急遽ケア内容を把握しているワーカーのピンチヒッター手配をした筈でしたが、事務局の手違いで、ケアに穴をあけるといいう事態になりました。利用者さんには申し開きができるような事柄ではありませんが、以後このようなことがないことを約束させて頂いた頂きました。さらに事業所としては、もうひとつ行わなければならないことがありました。ケアマネージャーさんへの事実報告でした。訪問介護事業所として当然の責任と義務ではありますが、このことは会の信用を著しく損なうことであり、ケアマネージャーさんへの報告には苦しい思いがありました。

しかし、当事業所の間違いを公にするこの意味は、とても重要なものである、と改めて実感させられました。今回、あえてこのことを会報で報告させて頂いたのは、当事業所として利用者さん側には、苦情の公開であり、今後このようなことが起らないよう万全の体制で行っていくための「かて」として、これからのためです。当会は、これからの問題について皆さんに報告していきたくて考えています。

